

うるくの コネタ

ローカルなコネタ、
歴史ネタなどをご紹介

『ガーナー森(マイ)』で昔は 小島だったってよー！

奥武山公園の向かい、鏡原町にある緑の小丘『ガーナー森(マイ)』。かつては漫湖に浮かぶ小島のひとつでした。

【景色の美しい名勝地だった】

琉球王朝時代には、中国から来た冊封使たちはガーナー森(マイ)をその形から「鶴頭山」と呼び、その美しさを称賛。そして奥武山からガーナー森(マイ)にかけての景色は、名勝中山八景の一つ「龍洞松濤(りゅうどうしょうとう)」としても知られ、戦前までは景色の美しい場所だったのです。

【1950年代の埋立てにより陸上の小丘となった】

戦後、鏡原町建設のため漫湖の一部(国場川河口)が埋立てられたことで、ガーナー森(マイ)も地続きの小丘となりました。名前の由来は、たんこぶ(ガーナー)のようだからとか、ガチョウがガーガー鳴いていたからなど諸説あるようです。また、ぼっかりと浮かぶ姿からクジラ山とも呼ばれていたようです。



【絵本にも! 語り継がれる”マジムン”伝説】

ガーナー森(マイ)にまつわる昔話は『うるくぬんかしばなし』や絵本にもなっています。むかしむかし、漫湖に浮かぶ魔物・ガーナーは真玉橋や嘉数、根差部の村人を襲っていたそうです。村人たちは困り果て、神様にお祈りをしました。神様は天からガーナーに向かって石を3つ落とし、ガーナーは動けなくなり森になったそう。ガーナー森(マイ)が二度と動かぬよう、真玉橋と嘉数、根差部の村人たちは祈りを込めてシーサーを作り、ガーナー森(マイ)の方向に向けて置いたそうです。真玉橋と根差部には今でもそのシーサーが残っていて呪みを効かせて地域を守っています。昔話は諸説ありますが、埋立て前のガーナー森(マイ)の写真を見ると尻尾の方に神様から落とされた石がありますね!(※絵本はうるく文庫(うるくローカルプレス事務所)にも置いてありますよ。)

【市指定・天然記念物】

緑豊かなガーナー森(マイ)は、ナハキハギの群生する最北の地として那覇市指定の天然記念物となっています。小さな道から登ることが出来、頂上には『ガーナー森(マイ)御嶽』と『仁天屋船或久姫神(じんてんやぶねひくひめのかみ)』の石碑があります。
※足元が悪く整備された道ではないので必ず大人と一緒に登りましょう。



2024年3月撮影



編集後記 素敵な取材時間 でした!

今回の特集も素敵なお店の皆さんにご協力いただきました。お忙しい中、取材にご協力いただき本当にありがとうございました! 今回は”アートな教室”をご紹介します。いずれの先生も作家活動をしながら指導されていて、芸術家としての感性にも触れることが出来、大変感銘を受けました!

そして地域にこんな素敵な芸術家の方々がいらっしゃることも大きな発見でした。また、スイミングスクールの皆さんの子供たちを想う気持ち、子どもたちの一生懸命な姿にも心が熱くなりました。地域の素敵な方々に出逢えた、素敵な時間に感謝です♡

うるくローカルプレスの「小禄(うるく)」は、【小禄、字小禄、字宇栄原、具志、高良、宮城、田原、金城、赤嶺あたり】としています。

URUKU LOCAL PRESS
うるくローカルプレス

WEBサイト
誌面では伝えきれない情報が満載!
<https://uruku.daikyo-k.net>

お問い合わせ窓口
✉ uruku@daikyo-k.net
各SNSからのメッセージもOK!

Facebook | twitter | instagram | youtube

うるくの情報発信局
『うるくローカルプレス』

編集部: 那覇市字宇栄原925番地 若葉荘1-3号室
運営: 大鏡建設株式会社(那覇市字小禄912-1)

人とまちの、
未来をつくる。

大鏡建設
DAIKYO CONSTRUCTION

URUKU LOCAL PRESS うるくローカルプレス

うるくのローカルな情報をお届け!

2024年4月
vol.15



無料 TAKE FREE

春から始める? アートな時間

